

ケアマネ通信



第22号
2024
Nov.

令和6年11月2日(土)『介護フェアinかながわ』にて、私たち、神奈川県介護支援専門員協会も出展いたしました。『介護フェアinかながわ』は、県民の皆様「介護」を身近に感じていただくことで、介護への理解や関心を高め、介護の仕事の魅力を知っていただくフェアです。本会では、同時開催の「かながわ感動介護大賞」においても、実行委員会や表彰選考会員に協力しております。ブース出展は広報出版委員会が担当し、ポスターや配布グッズ(ミニノート)を作成し、来場者にケアマネジャーの仕事の魅力を伝えたり、本会活動のPRや、介護に関心のある方の相談に応じたりと、充実した出展となりました。当日は多くの方々にご来場いただき、またブースでの活動にご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。ケアマネジャー不足が叫ばれる昨今ですが、今後もケアマネジャーの魅力発信に取り組んで参ります！

広報出版委員会 委員長 佐藤 明

目次

台風10号を振り返って	2	ケアマネあるある	7
委員会紹介(特別委員会)	3	編集後記	7
ケアマネジャーが出来るインフォーマルサポートとは	4	インフォメーション	8
ケアマネリレーコラム	6		

台風10号を振り返って

災害支援委員会 委員長 小藪 基司



台風の季節もようやく過ぎようとしていますが、令和6年度も全国的に多くの災害が起きました。元旦に起こった能登半島地震はもちろんのこと、風水害についても6月の梅雨の時期から9月の台風が一段落するまでの期間に大きな災害が頻発しました。

その中で神奈川県に関連する災害としては、台風10号が記憶に新しいところでしょう。台風10号は8月30日(金)に神奈川県に最も接近し、県内全域にわたって避難所が開設されました。幸いにも死者が出ることはありませんでしたが、全壊した建物が1棟、床上浸水が29棟、床下浸水が38棟あり、県内86カ所で土砂崩れがありました。また、道路の陥没や崩落などの被害も出ました。

神奈川県では、8月30日(金)に県災害対策本部が設置されるとともに、神奈川DWAT本部が立ち上がり、当協会のDWATチーム員も派遣への備えを行いました。また、平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町に災害救助法が適用になりました。

さて、以上が県全体の災害の概況ですが、会員の皆様の担当地域の状況はいかがだったでしょうか？皆様の事業所では、すでにBCPが策定されているはずですが、8月30日の午前から午後にかけては、そのBCPに定められている事項と、現在進行している事態とのすり合わせを行い、いま何をすべきなのかを考えていたのではないのでしょうか？筆者の属する事業所では、水害によるBCPの発動基準が「警戒レベル3~4が発令され、敷地周辺で浸水被害により施設運営に影響があると施設長が判断した場合」としており、業務を行いながら現在進行形の豪雨を警戒していました。幸いにも当地域では、そこまでの事態には至りませんでした。県内では実際にBCPを発動した事業所もあったかもしれません。BCPは策定とともに訓練やブラッシュアップが求められるものですので、実際に発動してみてもの振り返りを是非行って頂ければと思います。

神奈川県介護支援専門員協会では、「災害発生時報告フォーム」を協会ホームページに設けております。皆様の事業所の被災状況や地域の状況をご報告頂くもので、頂いた情報は集計した上で日本介護支援専門員協会に伝達いたします。今回の台風10号でのご報告は0件でしたが、能登半島地震の際には被災地からの報告が迅速になされ、その後の支援に役立てられたと伺っております。発災の際には身の安全を図りつつ、是非入力をお願いいたします。

委員会紹介

特別委員会 委員長 諏訪部 弘之



ケアマネジャーの人材不足、業務負担、そして離職の問題は、近年ますます深刻化しており、全国的な課題として注目されています。当協会はこれに対応するために「ケアマネジャーの業務負担軽減や人材確保定着に関する特別委員会」を立ち上げました。本委員会の主な目的は、ケアマネジャーが働きやすい環境を整備し、業務の効率化と質の向上を目指す具体的な対策を検討することです。

これまでに、当協会は県内のケアマネジャーを対象とした実態調査を実施し、人材不足や業務負担、処遇の実態についてデータを収集してきました。このデータは、ケアマネジャーが直面する現状を可視化し、解決すべき具体的な課題を浮き彫りにしています。特別委員会では、特に定着率が高い事業所に対してヒアリング調査を行い、その成功要因を探るとともに、先進的な取り組みを確認してきました。ヒアリングの結果、ケアマネジャーの離職を防ぎ、長く定着させるためには、柔軟な働き方の導入や職場内でのチームアプローチ、そして管理者による支援体制が大きな役割を果たしていることが明らかになりました。また、ケアマネジャーの業務負担が大きいこと、処遇が十分ではないこと、そしてサポート体制が不十分であることが、主な離職要因として浮き彫りになっています。これらの事例を元に、特別委員会ではより良い環境整備に向けた具体的な提言を検討しています。この委員会の役割は、単に問題を指摘するだけでなく、神奈川県内のケアマネジャーが持続的に働ける環境を実際に改善するために、神奈川県への政策提言を行うことにあります。

すでに行った県への提案では、処遇改善加算の導入や、ケアマネジャーの業務負担軽減を図るための支援策の強化を求めてきました。今後も県内の協力団体との連携を強化し、現場のニーズに基づいた実効性のある改善策を模索していきます。本委員会は令和6年度の単独事業として展開されますが、これらの課題については、継続的な活動が重要となります。今後も現場の声を引き続き集めながら、制度改正・調査研究委員会など他の委員会とも連携していきます。これにより、ケアマネジャーがより働きやすく、やりがいを持って業務に取り組める環境を実現することが本委員会の目標となります。また、ヒアリングを通じて得られた優れた事業所の取り組みは、地域の協力団体とも共有してまいります。ケアマネジャーを取り巻く環境の改善を通じて、地域全体でのケアマネジメントの質向上を図ることは当協会の役割だと思っております。

ケアマネジャーが出来るインフォーマルサポートとは ～「リスクヘッジ」を伝えていくこと～

大磯町西部地域包括支援センター 岩本 朋子

住み慣れた我が家で、愛する家族に囲まれて・・・という最期は多くの人の理想かも知れませんが、当たり前のように考える「家で死ぬこと」が、出来なくなる時代もそこまで来ているかもしれません。フォーマルなサービスだけで自宅で最期まで暮らすことができるのか、サポートしてくれる家族はいるのか、これからの年金額で暮らしが成り立っていくのか・・・全国的にも大きな課題になっていることですが、大磯町でも大きな課題となっています。

現在大磯町では、生活支援コーディネーター(社会福祉協議会が町より委託)を中心に「る～た～大磯」という協議体をつくり、生活支援体制整備事業を展開しています。この「る～た～大磯」という名前は、地域のハブのような存在になればという意味です。地域資源の開発においては、既存のボランティア団体の高齢化なども課題として挙がっています。

また、地域ケア会議は地域包括支援センター主催で月1回行政、医療、介護の多職種・多機関のメンバーで開催しています。その会議の中でも、高齢者世帯の金銭管理や介護の担い手の問題などが事例検討として多く挙がってきます。

この地域ケア会議から見えてきた課題として「リスクヘッジ」が挙げられます。高齢になり、間違いなく問題となる金銭管理のこと、介護のマンパワーのこと・・・これってもう少し早い段階で手を打っておく必要があるのではないか、そのためには自分自身が早い時期から準備をしていくこと、そのことを介護に無関心の人にも知ってもらう必要があるのではないか、この「リスクヘッジ」は大磯町の大きな課題ではないかと考えました。

そこで、この度「る～た～大磯」から、フリーペーパー『GeeYa:OISO』を発行し、全戸配布を行いました。「これからの時代、あなたはどう死にたい?」というテーマで「望む最期」のために、町民1人ひとりが早い時期から準備をすべきことを伝えるべく、このような内容にしました。

では私たちケアマネジャーは何が出来るでしょうか。「望む最期」についての準備は早い時期から行っていくこと、そのために必要な自助力、互助力を行政だけに頼らず市民として作っていくことが必要。そのことを多世代に伝えていくこともインフォーマルサポートの一つであり、すぐにでも始められることではないでしょうか。そこから新たな社会資源が生まれるかも知れません。

40～50代にこそ読んで欲しい、福祉と介護を考えるフリーペーパー創刊

GeeYa:OISO

超高齢化社会をサバイブしよう! 「じーや おおいそ」

2024年3月発行
VOL.1

特集

これからの時代、 あなたはどう死にたい?

福祉・介護にかかわるメンバーによる本音トーク&座談会
現場のみなさんに聞きました! 突撃インタビュー

- アークで見る! 大磯町の未来予測
- Let's Think! あったらしいなこんな老人ホーム
- 読んでみて! より良く生きるためのじーやのおすすめ本「夜明けを待つ」



フリーペーパー GeeYa:OISO (じーやおおいそ) 創刊号の表紙

～神奈川県で働くケアマネジャーが日々思ったことなどを綴っていきます～

ケアマネリレーコラム

あかりの森ケアプランセンター 伊藤 幸智

皆様、こんにちは。あかりの森ケアプランセンターの伊藤と申します。令和4年11月に会社を立ち上げ、令和5年2月より居宅介護支援事業所として運営をしています。3人で始めた事業所も、今は私含め5人。にぎやかな毎日を送っています。事業所の特長の1つに「事業所と変わらずに在宅ワークができること」があります。私自身がコロナ、子育て、父親の終末期等を経験していく中で「一緒に働く仲間が同じ環境になった時に、どのようにしたら働き続けられるか？」を考えていました。現在、事業所にサーバーを置き、紙だけではなくデータでも情報共有ができるように構築しています。FAXは一度PDF形式で受け取るので、紛失もある程度は予防できます。書類としていただいたものも、スキャンをして保管をすれば場所もとりません。データ化を普段から意識して行うことで、在宅ワークになった際も自宅のパソコンからサーバーに接続すれば、情報は事務所にいる時と変わりはありません。私自身、子供が体調不良で保育園を休まなければいけなくなった時は、在宅ワークに切り替えて仕事をすることができて

います。唯一困ることは、自宅からは会社用FAX番号での送信が出来ないことですが…メールやLINEを活用して乗り切っています。

日々の業務の中で、たくさんの依頼があることに感謝をする一方、情報を整理する時間を効率化することも考えています。ICTを使い、記録や情報の整理を行っているのですが…なかなか難しいですね。ですが、これができるようになったら、作業時間を短縮できるのではないかと考えています。

一つ思うのは「ツールを使いこなすことができるのか？」です。私も気づいたら50歳に近くなってしまいました…さて、私の頭は追いつけるのでしょうか？

ここまで読んでいただきありがとうございます。「今回のコラムは分かりにくい」と思った方は、ケアマネ通信20号4ページを見ていただき、AIに聞いてみてはいかがでしょうか？



ケアマネあるある

今年度の介護報酬改定では、栄養面のケアが、より重要視されているところです。ケアマネジャーが食事の支援で「食欲がないから食べる気がしない」という言葉を耳にする場面はありませんでしょうか。口腔内の問題？活動量が少ない？様々な要因が考えられますが、今回は「孤食」に目を向けてみましょう。皆様も自分1人で食事をするとき「簡単でいいや」「食べなくていいや」と面倒になってしまったり、人と一緒に食べるより美味しく感じなかったりすると思います。毎日・毎回の食事で、そのような気持ちになってしまうのが「孤食」なのだと思います。ケアマネジャーが利用者様を訪問する際、食事の最中ということはあまりありませんが、独居の方のとき「この人はどのように食事を食べているのだろうか」と想像すると、気持ちに寄り添えるのではないのでしょうか。ケアマネジャーは“社会との関わりを保つ支援”を意識しますが、孤食の支援も「美味しいね」の一言を伝えられる人がいることが、食欲を増進する最高のスパイスではないのでしょうか。

広報出版委員 (S)

編集後記

1964年10月1日東海道新幹線が開業、10日東京五輪が開催され、日本は戦後の復興から高度経済成長に移行したことを内外に認知されました。市川崑監督の記録映画「東京オリンピック」では、古い建物を鉄球で砕くシーンから始まりました。

それから今月で丁度60年になります。人間で言えばおめでたい還暦を迎えたことになりましたね。

1980年代の後半には、「シンデレラ・エクスプレス」と呼ばれる新幹線の最終便がありました。クリスマスの前夜にそ

わそわして恋人（深津絵里）の到着を待つというJR東海のCMがヒット。好景気でキラキラの絶頂の時代でした。

2004年には日本の人口がピークになり、今後は減少に転じています。それ時点でもすでに20年が経っています。もう1世代まえの話になりました。

2024年、今皆さんはどのような時代に立っているのでしょうか。

誰でもいいことも悪いこともあるけど、全体で少しずつでも前に社会が進んでいけばいいなと思っています。

広報出版委員 (T)

■令和6年能登半島豪雨災害により被災された皆さまおよび関係者の方々へ

令和6年9月の能登半島豪雨災害で、被害に遭われた皆様にご心よりお見舞い申し上げます。被災地での救助活動・復旧作業に従事されている方々に、深く敬意を表します。

私たち神奈川県介護支援専門員協会は、被災者支援を実施します。

まずは私たちからできることとして、10月中旬から11月末まで、研修会場において、被災者支援や現地での支援活動のための募金を行いました。皆さまからの温かいご支援・ご協力、有難うございました。また本会から、義援金を寄付させていただきます。

被災地の皆様が通常の生活に戻れますよう、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

■「第22回 神奈川県介護支援専門員研究大会」開催のお知らせ

「第22回 神奈川県介護支援専門員研究大会」を令和7年2月1日(土)に、秦野市介護支援専門員協会・いせはら介護支援専門員協会ご協力のもと、秦野市保健福祉センター(多目的ホール)にて開催いたします。

今回の大会テーマは『一歩一歩登るケアマネの山 ― 多様性社会においてケアマネはどうあるべきか ―』です。

詳細は本会HPをご覧ください。ご参加をお待ちしております。

■ケアマネ通信 アンケートご協力のお願い

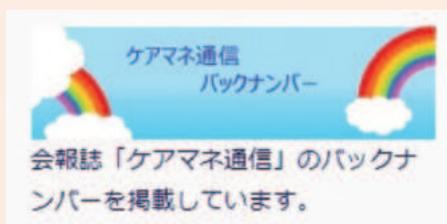
今後のケアマネ通信がより良いものになるよう、アンケートを実施しております。

当協会ホームページ「ケアマネの森」のトップページ「ケアマネ通信バックナンバー」より、アンケート(Google フォーム)にご協力ください。

<https://www.care-manager.or.jp/iinkai/kouho.html>

お手持ちのスマートフォンからも、ご回答いただけます。

会員の皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしています。



◎編集 / 発行

一般社団法人

神奈川県介護支援専門員協会

広報・出版委員長 佐藤 明



Facebook
はこちら↑



ホームページ
ユーザーはこちら↑

Contact

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 事務局
〒231-0023

横浜市中区山下町 23 番地 日土地山下町ビル 9 階

TEL 045-671-0284 FAX 045-671-0287

E-mail jimu@care-manager.or.jp

H P <https://www.care-manager.or.jp/>